

高度成長期に分譲された藤の台団地で子育て期を過ごしたK夫妻。その後は杉並に暮らしたが、子どもたちも独立し、そろそろ夫婦でゆつくり暮らしたいと、2018年の夏、懐かしの我が家へ戻ってきた。その際、75平米の南向き3LDKだった住戸を、二人暮らしに合わせてリノベーションすることに決めた。

玄関を開けるとそこは木の香りに包まれ、おおよそ団地の一室とは思えない端正な空間が広がっていた。南に面した大きな窓からは緑豊かな玉川学園の家並みが望め、見晴らしも抜群だ。

「窓ごしの風景を眺めながらキッチンでお皿が洗えるんです。どこにいても光が差し込んで本当に明るい。嬉しいのは、前の家を使っていた家具をそのまま持ってきたこと。狭い団地には入らないだろうと諦めていたんです。」

そう語る奥様は、家のことを話し始めると笑顔が溢れた。ご主人が集めた鉄道模型が飾られた奥行き浅いオーダーメイドの家具は、杉並の家で使っていたの。壁面収納に転用し、今でも家の真ん中でご主人の生活に潤いを与えている。全国を回って集めた大量の鉄道資料や思い出の詰まった写真たちも、スライド収納の中で整然と並ぶ。これも前の家で使っていた特注品で、使い勝手の良さや抜群の収納力が気に入り、再利用することにした。台所に置かれた大きな食器棚も何十年も使った愛着があるものだ。

低い天井と小さな和室。そんな団地ならではの間取りはほとんど取り払われ、一つのびやかな空間に生まれ変わった。どこにいても互いの気配を感じられるオープンなスペースを、南から差し込む柔らかな日差しが包み込んでいく。リビングに隣接した和室も障子を開け放せば、さらに広がりが増す。

床材のモミの木には浮造り加工が施され、裸足で歩くと気持ちがいい。段差や敷居は全て撤去され、

築50年の団地も快適に、美しく暮らしが豊かになるリノベーション。昭和の面影が漂う雰囲気や、昔ながらの細かい間取り。そんな団地を住まい手のライフスタイルに合わせた空間へ。人生が楽しくなる団地リノベーションのレポートです。



1. リビングの大きな窓の光が差し込む廊下。床と壁に用いたモミ材は、浮造り仕上げで光と影を映す。左には和室、右にはキッチン 2. 昼間なら自然光で十分明るい対面式のキッチン。リビングとして使用している 4. 洗面とトイレは一つの空間にして、開放感と使いやすさを実現した。扉は引き戸に、床もバリアフリーに 5. 暗い印象だった北側の玄関も、木の質感を活かし、清潔感溢れる隣接する和室へも視界が広がる 3. 趣味の習字を楽しむ和室は障子を閉めて客間にすることも。普段は障子を明け放ち、オープンなスペース明るい空間に生まれ変わった

バリアフリーになった室内は転倒の心配もない。夜には足元を照らすフットライトが自動で点灯する。「団地に住んでいることを忘れてしまいたいので、これまで変わるとは思いもよらなかった。全体的に新しく、綺麗になるくらいなのかと思っていたから。それと、猛暑だったこの夏の電気代が8千円程度で済んだんですよ。」驚きを隠せないのはご主人だ。

光熱費を抑えることができたのは、高性能の断熱素材をしっかりと入れ、二重窓にすることで外気を遮断しているから。一方、冬の寒さ対策に窓際の床に敷いた陶板は、太陽が低くなる冬は太陽熱を集める蓄熱体として部屋を暖めてくれる。

古くて使い慣れたものは大切に、最新の住宅設備や自然素材を効果的に取り入れ、住みやすさだけでなく安全や安心、そしてコストダウンもかなえてくれた鈴木工務店のリノベーションは、暮らし方そのものを変えてくれたことだったのだ。居心地の良さと、思い出の品に囲まれたK夫妻は、町田で始まるこれからの青春を謳歌していく。

## 建物完成見学会

11月23日(金・祝)  
24日(土)  
25日(日)

会場：町田市広袴 ●予約制。要問合せ  
「集う風景」リアルZEH\* OMXの家



※家電消費を含むゼロエネルギーハウス 延床面積：111.76㎡